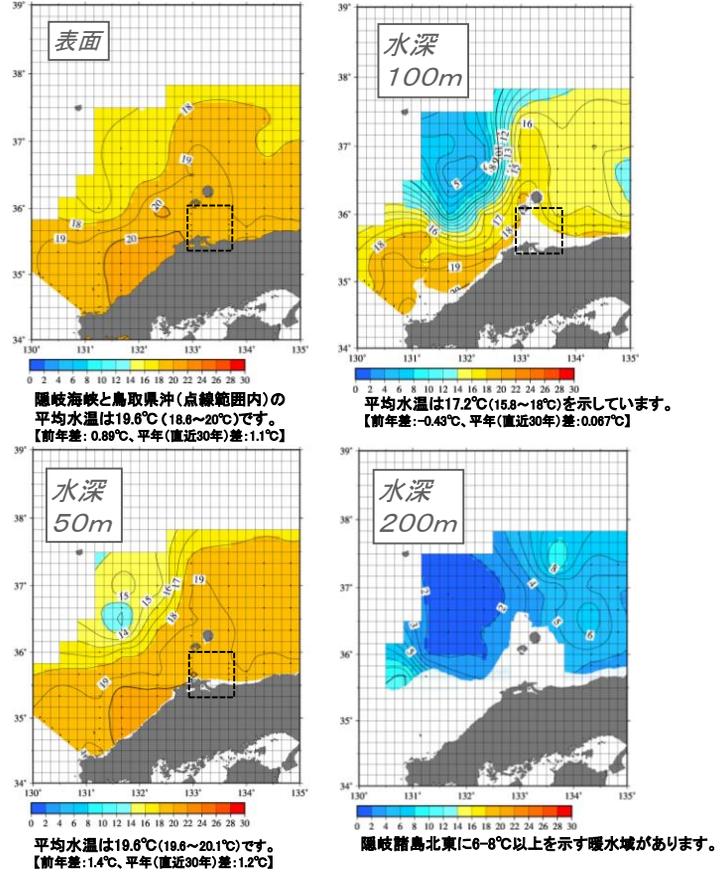
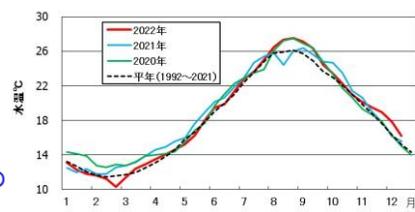




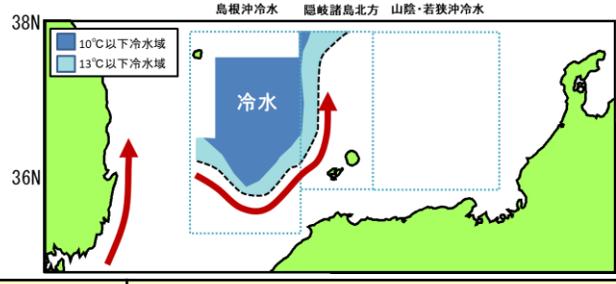
鳥取沿岸の水温

鳥取県栽培漁業センター 沈砂槽
(電話:0858-34-3321)

12月中旬 16.2℃
平年より 1.0℃高め



12月上旬の水塊配置と対馬暖流



鳥根沖冷水域	N35° 40'以北に13℃以下の冷水域が認められます。
隠岐諸島周辺の冷水	鳥根沖冷水域の一部が張り出しています。
山陰・若狭沖冷水域	N38° 以北に認められます。
対馬暖流の流路	主流は朝鮮半島東岸に沿って北方に向かい、一部が鳥根沖冷水域に沿って鳥根半島沖から北に向かい流れると考えられます。鳥取県・兵庫県沖における対馬暖流の分流は、N38° 以北を北東に向かい流れる可能性があります。

*県内の漁獲情報については水産試験場ホームページ(鳥取県水産試験場で検索してください)に詳しく掲載しています。是非ご利用ください。

水産振興課・漁業調整課

鳥取短期大学で漁業者主催の料理講習会が開催されました

11月29日(火)に、遠藤会長(漁業士会)、大磯専務、山本漁政指導員(鳥取県漁協)が講師となり、鳥取短期大学の学生45名に、ハマチを用いた料理講習会が行われました。遠藤会長や漁協職員の指導のもと、皆さん熱心に取り組まれました。家で魚をさばかない学生がほとんどで、3枚おろしや皮引きに苦戦していましたが、中には普段からよく魚をさばく学生もあり、慣れた手つきで取り組む様子が見られました。学生からは、美味しい料理方法についての質問や、来年度は他の魚種で実施してほしいなどの声があり、魚料理への関心の高まりを感じました。今回の料理講習会は、皆さんが魚料理に興味をもつきっかけになったと思います。

(担当)漁業振興担当 足立 電話 0857-26-7317

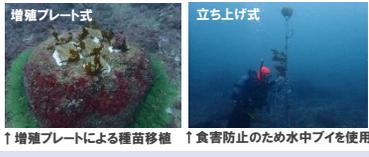


遠藤会長の指導の下、さばき方を学ぶ学生
ハマチを実際にさばく学生
学生が作ったハマチの刺身、たたき

栽培漁業センター

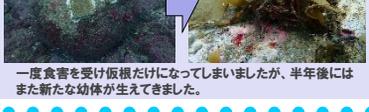
ツルアラメを用いた深場漁場への藻場造成

御来屋地区では、サザエの漁場である水深10m付近の深場で藻場を復活させるため、年に2回、7月(ホンダワラ類)と11月(クロメ)の母藻投入を行っています。その結果、ホンダワラ類の群落の形成やクロメの幼体を確認されるなど、徐々に効果は現れてはいるものの、御来屋周辺は濁りが強いため、光量不足による海藻の生長不良が課題となっています。



↑増殖プレートによる種苗移植 ↑食害防止のため水中パイを使用

そこで、新たな藻場造成種としてツルアラメという海藻を用いた試験に取り組んでいます。本種は、光の少ない深場でも生息が可能なことに加え、遊走子を放出して増える有性生殖と、仮根から幼体を出して増える栄養繁殖の2つの方法で増えることができるため繁殖力が強いという特徴をもちます。このことから深場での藻場造成に向いているのではと考えています。



一度食害を受け仮根だけになりましたが、半年後にはまた新たな幼体が生えてきました。

今後も引き続き効果検証および普及指導を行っていきます。藻場造成についてお困りのことがあればお気軽にご相談ください。☎0858-34-3321

水産試験場

令和4年度第1回境港地区漁海況連絡会議

境港地区の水産関係者の皆さんを対象に、当場の研究員から水温等の海洋環境や、アジ・サバ・イワシ・マグロ等の浮魚、ズワイガニ等の底魚の漁模様や今後の見通しについて報告する連絡会議を12月13日(火)に県営境港水産物地方卸売市場にて行いました。概要は以下のとおりです。

1月上旬の海況予報

- 鳥取県沿岸域の水温は前年より高めに推移
- 鳥根沖冷水は前年に比べ接岸、山陰・若狭沖冷水は前年に比べ離岸傾向を示す
- 対馬暖流の分流は、隠岐諸島西方から北方に向かい、鳥取県沖ではN38°以北を北東に向かう流れが生じる可能性がある

各魚種の漁況の見通し

魚種	予報期間	コメント	
スルメイカ	12月~2月	前年を下回る~前年並みとなり、平年を下回る見込み	
マアジ	1月~3月	前年並みで平年を下回る(2~3歳魚が少なく、1歳魚はこれらを上回ると考えられるが、近年1~3月の漁況が良くない)	
マサバ		前年を上回り、前年並み(3~4歳魚が少なく、水温は比較的前述の少ない年の傾向だが、主体の1・2歳魚は多いと考えられる)	
マイワシ		平年を上回る(主体となる2022年級群の秋の漁況に不安は残るが、資源量・加入量は増加傾向にある)	
クロマグロ		75kg前後の5~6歳魚が今季をやや下回るものの、今季同様、水揚げの中心であり、大型サイズが多く水揚げされる見込み。また、90kgを超える7歳魚以上の水揚げが、今季を上回る可能性あり	
ブリ	11月~3月	0歳魚(沿岸のハマチ8入、まき網のツバス銘柄)は前年並、2歳魚以上(沿岸のマルゴ、まき網のワラサ銘柄)は前年を上回る	
底魚	松葉がに	11月6日~3月20日	前年並み~前年を下回り、平年を下回る(サイズは甲幅12cm以上が過半数を占め大型割合が高い傾向)
	親がに	11月6日~12月31日	前年並みか、やや前年及び平年を下回る(資源の悪化は下げ止りで、主に鳥取沖で資源が回復傾向にある)
	若松葉	2月1日~2月28日	前年並みで平年を下回る
	その他底魚	※今期の実績(9~10月)	漁獲量は前年並(前年比106%)、漁獲金額は大幅増加(前年比148%)ソウハチ、マダラ、アカムツ、アカエビ等で単価は上昇

特別講演(国研)水産研究・教育機構 研究員 佐久間啓氏

今回、(国研)水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部 研究員 佐久間啓氏を講師にお招きし、「日本海西部のスワイガニ資源について」講演して頂きました。近年のスワイガニの資源状況(富山県~鳥根)については直近5年間は資源は減少傾向にあったが、資源管理の取組等により2023年から徐々に資源が回復傾向にあることや、資源状況の好し悪しを大きく左右すると思われるスワイガニ幼生の分散シミュレーションの最新の研究取組等についてわかりやすく、興味深いお話を頂きました。



佐久間 啓氏の講演

令和4年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

潮に夢を

共和水産株式会社

代表取締役 前橋 知之

TEL:084-0006 鳥取県境港市栄町65番地
TEL:0859-44-7171(代) FAX 0859-42-6530

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

西日本ニチモウ株式会社

本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 〒750-1136
電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424
境港営業所 鳥取県境港市栄町67番地 〒864-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330